

# 1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2970200230		
法人名	社会福祉法人 甘樫会		
事業所名	社会福祉法人 甘樫会 あまがし苑高田		
所在地	奈良県大和高田市神楽3丁目11番13号		
自己評価作成日	平成25年12月4日	評価結果市町村受理日	

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 Nネット		
所在地	奈良市登大路町36番地 大和ビル3階		
訪問調査日	平成25年12月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援と食に力を入れている。利用者の行きたい所や入所前のなじみの場所を聴き出し、出かけてもらっている。葛城山へツツジ見物、スーパー銭湯、三輪大社、橿原神宮への初詣、弁天座へのお芝居見物などへ出かけた。外食は毎回好評である。  
 行楽(公園など)へ行く際は、利用者と職員とでお弁当を作り現地で召し上がって頂いた。ミキサー食の利用者にはゼラチンごはんでソフト食を作り召し上がって頂いた。苑内の行事でもソフト食でちらし寿司や桜餅を作り、全ての利用者に召し上がって頂く事ができた。  
 咀嚼、嚥下機能が低下しても食べる事を楽しむ環境作り、認知症が進行しても外出し五感で感じ楽しむ事ができる環境作りに入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2階建てで1階が事務所と厨房とディサービスのフロアであり、2階に3グループホームが奥行き長い廊下で繋がっている。現在は2グループホームに利用者が入居している。2ユニットには其々個室とリビングルームがあり、昼間は皆がリビングに寄り添い談笑する庭的な雰囲気である。契約書に看取りの指針が明文化され、既にターミナルケアを実施された経験があり、現在も利用者家族の希望を取り入れて介護がなされている。隣接敷地内に地域密着型特養の建設計画がある。早急に運営推進委員会の機能などの推進が期待される。スタッフの友好的、温かな介護姿勢が随所に見られ、成熟した事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念である「安心介護」に加え地域密着型サービスとして理念を追加。住み慣れた地域や馴染みのある人との関係を大切にしている。理念を施設内に掲示いつでも目にふれるようにしてある。	利用者本位を機軸に利用者の尊厳を守る。安心、安全、快適な支援を目的とした「安心介護」を理念に、実践に活かす努力をしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常の挨拶や避難訓練、行事にあたり近隣の方々に説明に伺う。地元の自治会や宮講の皆様には毎月苑だよりを送っている。地域の祭りや花見に参加。	自治会に加入し、地域の祭りや神社行事に参加している。要請を受けて高校生の福祉科実習5日間及び中学生の職業体験学習を承諾している。周辺の商店に買い物に出掛け交流を計っている	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム機能を入所者のケアに配慮しつつ、地域に開放している。認知症の理解や関わり方についての相談・応答、家族やボランティア等の見学や研修などの受入等。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会単独スタイルで実施している為、運営推進委員会としては取り組んでいない。	運営推進会議の持つ役割や機能への認識はあるが、構成メンバーの再検討が中断されている。定期的、積極的参加を呼びかける必要性は認識されているが、実現していない。家族交流会は殆んど毎月開いている。	会議の設置趣旨や機能を十分に果たすところ迄至っていない。積極的に地域区長や民生委員の参加を要請し、早急に会議の開催に向けた取り組みが望まれる。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	ほぼ毎月介護保険課を訪れるか電話で連絡している。また、地域包括支援センターや介護保険課の方から入所させたい利用者がおられた場合等、空き状況の確認や入所の相談を頂いている。	事業運営やサービスの課題等の相談、解決のため行政との連携は不可欠と認識し、担当者との連絡を密にしている。複数の生活保護受給者の入所があり相互に情報を交換している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議やスタッフ会議で勉強会を設け、職員全員に理解させている。	ユニットは2階にあるが、昼間は鍵を掛けないようにしている。毎月のスタッフ連絡会議で言葉による虐待や身体拘束について理解を深めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議やスタッフ会議で勉強会を実施。朝礼・終礼でも話し合いを行っている。身体だけでなく、言葉の暴力も無いよう、常に注意を払っている。入浴時や更衣時は身体チェックを行い、傷やあざが出来ていないか確認、異常があれば報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市からもらった資料をもとに全体会議で簡単に勉強会を行った。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の際は契約書・重要事項説明書を中心に、特にトラブルになりそうな項目についてはあらかじめ十分に説明を行い納得して頂いている。入所後に発生した利用者や家族の疑問や不安なことについても、十分話し合いを行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には日頃から伺っている。家族に関しては面会や面談時に意見をお伺いしている。その際簡単な要望であれば、その場のスタッフの判断で行い、その後管理者に報告している。必要に応じて会議で話し合いを行っている。また施設に話しにくい場合は地域包括支援センターへの相談も可能と説明している。	利用者には食べたいもの等の要望について話し掛けて聞いている。家族には面会時に意見、要望を聞き出すようにしている。面会の少ない家族にも不安や疑問を聞き出すようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・スタッフ会議、主任による個人面談を設け、職員全員の意見が反映できるよう取り組んでいる。年1回の雇用契約更新時には、管理者が個別に職員から要望を聞くようにしている。	日々の活動の中で意見や提案が伝え易い職場づくりを心掛けている。全体会議や定例のスタッフ会議で主任を中心に話し合っている。新入所者については、センター方式シートに従って利用者に寄り添った介護を目指している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	介護職の処遇改善手当の交付をはじめ、業務態度や内容を見極め責任のある職務につけている。また資格試験の紹介や斡旋、研修などの参加を促している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月の全体会議で計画的にOJTを実施している。中堅スタッフには認知症実践者研修の参加や全国グループホーム協会主催の研修の参加をしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会の奈良県支部に加入し、同業者の懇親に努めている。またお互いに協力し合いながら、活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	過去から現在に至るまでの経緯・原因を把握し、利用者とコミュニケーションを取りながら本人に寄り添った支援をさせて頂いている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアマネージャー等が家族を訪問し、困っている事や不安、要望を聞き出し、対応について細かく説明を行い、安心・納得して頂いている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネージャー等がニーズを聞きだし、そのニーズに対しふさわしいサービスを地域ボランティアも含めて検討している。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人ができる事はして頂いている。利用者の特技に合わせた個別レクリエーションを実施し、利用者から将棋・囲碁・調理・園芸・歌などを教えてもらう機会を設けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気がかりな事・意見・希望などを、職員に気軽に相談してもらえるよう、面会時に声掛けをさせて頂いている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	初詣は今まで行っていた神社を利用者に聞き、馴染みの所に行ってもらった。葛城山のつづじを観に行っていた利用者は、お出かけで行ってもらった。家族・知人にも気軽に訪問して頂いている。	家族や知人に気軽に尋ねて貰っている。利用者が体力のある限り 希望の外出先に同行している。三輪神社、檀原神宮の参拝も実現している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	母日レクリエーションを行い、利用者同士の一緒に楽しめる環境を作っている。食事の際、機能低下した利用者自立の利用者が声掛けをして食事を促す場面も多くみられる。利用者同士のトラブルは、職員が間に入りお互いから話を聞き解決に努めている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とする利用者に対しては、同事業所居宅介護支援のケアマネージャーに、継続を委託している病院や退院後の施設の斡旋・紹介を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が担当する利用者に日頃からコミュニケーションを取るようし、会話の中から希望・要望を把握するよう努めている。本人らしく生活が送れるよう努めている。	独自のアセスメントシートに基づいて、生活変化シートに焦点を当て、利用者毎の介護に活かしている。毎月のスタッフ会議や2ヵ月毎の全体会議で成果の効果的波及を検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には家族の方・利用者にお伺いしている。センター方式も活用し把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者ひとりひとりの残存機能に着目し、できることはもちろん、できそうなことにも声掛け・見守り介助を行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族のニーズを主に介護計画に反映している。月1回モニタリングを実施している。利用者・家族の思いを叶えられるような介護計画の作成に努めている。	介護計画を1ヶ月毎にモニタリングし、6ヶ月ごとに介護計画を更新している。具体的なサービス計画書に基づいて工夫や気付き、家族の希望を取入れて目標に向かって頑張っている雰囲気にある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の変化・気づきを具体的に記録している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊、旅行、希望病院への受診支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	警察、消防、民生員やボランティアの方の協力を得て、安全な生活が送れるように支援している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週月曜日・木曜日に苑のかかりつけ医の往診がある。かかりつけ医以外に、個々のかかりつけ医・歯科・眼科受診の支援も行っている。	歯科、整形、皮膚科などの個人対応もあるが、毎週月、木曜日にホームかかりつけ医師と看護師の往診があり、健康状態や医師の指示等を家族に報告している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	吉川診療所の院長と看護師の2名が毎週月曜日・木曜日に往診に来た際に、健康状態を伝え管理してもらっている。デイサービスの看護師にも相談などの協力も得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、情報や介護サマリーを提供している。またお見舞いの際には、担当看護師や相談員に病状の経過や退院後のケアについて相談している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族(本人)に希望をきいた上で、担当医を交え施設として出来る事・出来ないことを説明、医師のバックアップできる内容を確認し、終末期にむけ施設の方針や医師の協力の内容を説明し支援している。	協力医療機関の医師と看護師を中心にターミナルケアに取り組み、103歳の利用者をユニット全体で40日間支援した実績がある。現在もユニット中央個室の扉を開放し、利用者の話し声の聞こえる雰囲気の中で看取りの介護がなされている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	OJTによる応急手当やマニュアルに沿った対応を年1回行っている。AEDの使用方の講習を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルの設置。避難訓練(昼・夜間設定)実施。避難場所についても、訓練ごとに変えている。	年に2回避難訓練を実施している。地元の自営消防団との連携も話し合っている。夜間想定避難誘導も実施している。緊急時の連絡網整備、防火扉、スプリンクラー設置がなされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	会議の勉強会では接遇、パーソンセンタードケアについて勉強会を実施。言葉掛けには特に気をつけている。利用者を一人の年長者として敬い尊重できるよう努めている。	利用者の生活歴等を踏まえ、言動に注意し適切な対応を心掛けている。パーソン・センタード・ケア職員研修を通じて排泄や入浴等は利用者の思いに寄り添って介助をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションの中で思いを聞き出している。利用者の個性も把握し、利用者本人が希望を表出しやすいような環境作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って一日過ごして頂いている。利用者の要望に沿って、個別レクリエーションを実施。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧が好きな利用者には、外出の際に化粧をして頂いている。散髪も利用者自身の希望を聞いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施。利用者に合わせて食事形態、盛り付けを工夫している。(咀嚼・嚥下、体調にも配慮している)菜園で採れた野菜を使ってのおやつ作り、行事でお好み焼きやお弁当作りも行っている。食事の片付けもできる方に行っている。	1階の厨房で調理されたものを2階の2ユニットで盛り付け配膳している。対面式にテーブルを囲み家庭的雰囲気である。誕生会や弁当持参の遠足にも行く。利用者が苑内畑で野菜を作り、味噌汁にして楽しんでいる。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食時、午前・午後、入浴後は水分補給を行っている。食事・水分摂取のチェックを行い、摂取状況の把握を行っている。飲水量の少ない利用者には決められた時間以外にも提供、摂取カロリーが低い利用者には栄養補助食品を提供している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、総入れ歯の方には義歯洗浄・うがいの声掛け、自身の歯が残っている利用者には、仕上げ磨きのケアを実施。夜間に入れ歯洗浄剤による消毒・洗浄を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人一人の排泄パターンを把握し、排泄パターンに応じたトイレ誘導を行っている。できるだけオムツを使用しないようにしている。居室にポータブルトイレを設置し、自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表に記載された排泄パターンを把握して利用者に応じたトイレ誘導を行い、排泄の自立を促すように支援している。オムツ使用者は昼間は2人である。家族も経済的負担の軽減を喜んで貰っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	こまめに水分補給を行っている。利用者の状態を把握し、主治医と相談し対応している。食べ物の工夫や散歩など運動も働きかけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日中は1階の大浴場で入浴を楽しんで頂いている。夜間の入浴はユニットの浴室で入浴して頂いている。行事で地域の温泉を楽しんで頂いたり、入浴剤を入れたお風呂も楽しんで頂いている。	週2～3回午後の時間帯に1階の広い大浴槽を利用し入浴する。車椅子の利用者は車椅子に座した姿勢で入浴出来喜ばれている。夕方からは2階ユニットの個人浴槽に入ることも出来る。スーパー銭湯に出掛けることもある。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、利用者一人ひとりに応じて居室で休んで頂いている。消灯は基本21時だが、居室やフロアで過ごして頂き、好きな時間に眠って頂けるよう支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方されている薬の説明書を管理し、利用者の症状と処方されている薬の効能について理解している。利用者の服薬管理は職員が行っている。便秘薬は排便状況を把握し、状況に応じて主治医に相談し、用量を調節してもらっている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活で水やり・畑仕事・家事の役割をできる範囲でして頂いている。散歩・買い物・ドライブなどの気分転換も行っている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者が希望する所に外出できるよう支援している。季節の名所などは行事に取り入れている。祭りなどは地域の方々や開催者の協力を得ている。また、家族による外出も支援している。	家族引率の外出もあるが、弁当持って馬見丘陵公園に行ったり、勝手神社の祭りにも行く。苑内菜園でトマト、しし唐、ピーマン、そら豆などを作り外気浴を楽しみ、雨天にはユニット廊下が長く、スタッフの声掛けで歩行練習をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	普段はお金のトラブル防止の為、お金は持たないようにして頂いているが、買い物や行事に出かけた際には利用者にお金を渡して支払いをして頂いている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望や力に応じて、家族等への電話や手紙のやり取りが出来るよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は常に整理整頓・清潔を保ち、混乱招くような刺激がないよう配慮している。ユニットの飾り付けは季節感を取り入れている。	2ユニットの扉を開放して自由に行き来が出来て利用者が廊下を杖歩行している。壁には利用者の作品が展示され、季節感に溢れている。トイレが複数あって暖簾などで入口が工夫されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各ユニットの扉は開放し自由に行き来できるようにしている。それにより一人になれたり、気の合った利用者同士が思い思いに過ごせるような居場所が確保されている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設の備品だけでなく、馴染みの家具や食器を持ち込んで頂いている。居室も利用者本人の好みに合わせて居心地の良い空間づくりに努めている。	畳の部屋も洋間も洗面台、クローゼット収納が整頓され広々と落ち着く居心地の良い感じがする。家族の写真や絵や自作のカレンダーが壁に貼られぬいぐるみの子どもが布団に横たわっている風情が微笑ましい。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各ユニットのフロアーに、利用者と職員と一緒に作成したカレンダーを貼っている。トイレ・居室は識別できるように表示している。ひとりひとりの出来る事・わかる事を活かして安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		